

# 大俣小だより

# 12月号

「気づき・考え・行動し、話し・伝える」児童の育成



## 2学期をふり返って・・・

今年も残すところ、後1か月となりました。12月は、学校では2学期の締めくくりの月です。子供たちには、学習面だけでなく、生活面の締めくくりもしてほしいと思います。

さて、2学期には、修学旅行、バス遠足、オリエンテーリングなどの行事を実施することができました。他にも、地域の方々のご協力のもと、生活科や総合的な学習の時間に体験活動を行うことができました。これらの体験活動は、子供たちの自己有用感、自己肯定感を向上させ、子供たちの生きる力につながっていきます。

先日のPTA人権研修会でも、スクールカウンセラーの磯村先生が「思春期のころによりそう」と題して、子供の心へのよりそい方や自己肯定感についてのお話をしてくださいました。

小学校低学年で、座っていることが難しい子、トラブルを起こしやすい子などは、自己評価が下がり、自己肯定感も下がっていきます。早期に対応することが重要で、相談や検査の活用をすることも大切です。

中学年は、多感な時期に入るので、他人と比べたり怒られたりすると心の傷になることもあります。できれば、本人のよいところや強みをたくさん褒めて、伸ばしていけるようにしてほしいものです。

高学年になると、他者との違いに敏感になったり、理想の自分と現実の自分にギャップを感じたりします。大人が、正論で追い詰めたり、子供の怒りに巻き込まれたりしていないようにしなければなりません。

我々大人は、子供の心によりそい、安心基地となるために、心のゆとりをもちたいものですね。



## TOKKATSU(特別活動)について

現在、世界で学級会や日直、給食・掃除当番などを行う日本式教育「特別活動(TOKKATSU)」が注目されています。「アラブの春」以降、混乱が続くエジプトでは、人材育成のための国家政策として小学校で導入されているそうです。

本校でも、児童中心で集会活動や学級会の話し合い活動を行っています。児童に任せることは、時間がかかり、失敗をすることも多いですが、人間的成長の一助となります。引き続き、特別活動の充実を目指していきたいと思えます。

## 子供いじめ防止委員会 ～いじめをなくすために～

『子供いじめ防止委員会』は、学校の主人公である子供たちが、いじめを「しない・させない・見過ごさない」学校を自分たちの力でつくっていくことを目的としています。今年度、本校では「言われて気持ちのいい言葉」「言われて嫌な言葉」のアンケートを実施しました。「嫌な言葉」は封印し、「気持ちのいい言葉」はポスターにして掲示しています。全ての子供たちが笑顔あふれる学校生活を送れるよう、教職員も「言葉」を意識して使っていこうと思います。保護者の皆様、地域の皆様も、ご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。